

## 第7回オンライン自主研修 感想・意見

① 「保護司と対象者の関係、保護司の活動には解決はない」と言い切るところ、ある保護司のエピソードなど、さすが脚本家の視点、語りです。「生き直し、やり直しができる」「人を幸せにする」がキーワードの人間ドラマ。最後の出演者館ひろしさん、浅丘ルリ子さんのインタビューもとても良かった。

② ○久松氏が長年追っていたテーマは「人生のやり直し」である。その中の困難な例として犯罪からのやり直しがあり、それを支援する役割としての保護司がいる。

○一度犯した罪は消える事はなく、将来にわたって背負い続けていかねばならない。しかし、罪を犯した者にとっても未来があり人生がある。幸せを求めていく権利がある。これが、このドラマのテーマである。

○また、久松氏は、保護司制度の課題として、「ボランティアのままでもいいのか」という疑問を提示する。しかし、ボランティアだからこそ、保護司の自由な思いで活動ができるというメリットがある。

「ボランティア」と「有償」との兼ね合いが大事だと主張されている。

○久松氏が紹介する保護司の言葉「保護司は対象者にとって、絶対的な信頼者である」との言葉は、感銘的であり、その言葉を胸に秘めて、面談等にあたりたい。

③ 久松氏の講演の中でいくつかのキーワードが耳に残りました。「生き直し」と「やり直し」そして「不寛容な世の中」です。

「寛容」というのは、「心が広く、人をよく受け入れ、過ちを許す事・さま」その対義語は、「狭量』（度量が狭い事・さま、人を受け入れる心が狭い事）です。

スマホやインターネット、SNS、動画などで情報伝達が容易になり、コミュニケーションの幅が広がった反面、ある部分においては、人を簡単に遠ざけることが簡単になりました。

先日退任された桑山さんの挨拶の中で、「おせっかいな近所のおばさんでいたい」という言葉は大切であると

### 東灘区保護司会

### 第7回オンライン自主研修のご案内

【教材】法務省 保護司専用ホームページ にアクセス

①「研さん資料」「保護司制度、研修」「その他」をクリック

②「令和3年度 保護司等中央研修会」

資料を確認をクリック

③リンク（動画等）第2部 講演

閲覧をクリック

④「令和3年度 保護司等中央研修会」の研修

久松真一氏御講演

『生きて、ふたたび 保護司・深谷善輔』を書いて

をご覧ください



#### 【自主研修の要領】

ご覧になった感想、意見を100字程度にまとめて

東灘区保護司会広報部宛

「所属支部」「氏名」「視聴月日」を記入してメールください。（支部長による代行メールでも結構です）

送付期限は令和4年1月12（水）です。（期限遵守と100字程度の感想・意見は必須です）

思います。「お節介」できる人の存在は、その地域にとって宝物でしょう。

今では、知らない人からの挨拶は変質者扱いです。だからこそ、「知らない人」にならないような工夫が必要だと思います。小学校の挨拶運動で「顔」を覚えてもらう。地域の活動や小・中学校での活動。

「知らない人」から「見たことがある人」へと変わることが肝要であると思います。「生き直し」「やり直し」を受けいれる地域は、名前は知らなくても「見たことがある人」が活躍していく地域でしょうし、「見たことがある人」がうろうろしていれば、悪さもしにくいかもしれません。

寛容な地域づくりは、「寛容な人づくり」だと思います。地域で活躍されている方々、団体と協力して励まし合いながら活動できるといいですね。

④ 「保護司の活動に解決というものはないから。その部分を丁寧に描きたい」という久松さんの言葉がとても印象的だった。

そして、人生はやり直し、生き直しができる、そんな世の中にならないといけないという言葉にも感銘を受けた。

保護司は決して日向に出ない地道な活動だが、こうして応援して下さる方がいらっしゃるということを感じて、

これからも活動を続けていきたい。

⑤ 久松真一氏のご講演は、以前にも視聴しましたが、テレビ放送が始まった今、再度視聴することによって、久松氏の意図を良く理解することが出来ます。

久松氏は講演の中で、「初めは1回の放映と考えていたものを、それでは描き切れないため、数回のシリーズにした」と言われていましたが、保護司の活動を一般の方々に分かって頂くためには、正にそのとおりだと思っています。

配役の魅力もありますが、深谷保護司や対象者の苦悩や周りの方々の反応が細かく表現されており、見る者を引き込んでいきます。

保護司としては、このドラマは典型的なケースを想定しており、今の自分の現実とのギャップを感じますが、保護司としての心構えについては、基本的なところで共通するものがあり、見習うところが多いと感じています。

最終回まで、期待をもって見ていきたいと思っています。

⑥ YouTubeとドラマも5回目まで観ました

保護司の活動をわかりやすく描いておりこれまでの経験を振り返れました

一方で月2回の面談だけでなくその他の時間でも誠実に対応している深谷保護司の行動に現実的に自ら出来ているかに悩んでしまいます

ボランティア活動とはいえ一人の対象者に向き合い更生を目指していく保護司活動に重責を感じます

「生きて再び」のタイトルにあるようにやり直し生き直しの人生へのサポートをこれからも誠実に対応し対象者から信頼される活動の大切さを改めて認識しました。

⑦ 「生きて、ふたたび」のドラマ、毎回テレビでも拝見しております。保護司や協力雇用主、対象者を取り上げてドラマにして下さり、是非ともたくさんの方に観て頂けたら…と感じています。

脚本家の久松先生の思いと熱意を拝聴することが出来て、保護司をさせて頂いている身には、その重責と向き合う心の大切さを改めて痛感いたしました。

対象者を信じ、絶対的な信頼者になること、人に何かをしてあげることの大変さは大いにありますが、人としても保護司としても日々進歩できるようになりたいです。